

これからの高校と大学での学び、そして高大接続を考える

河合塾ホームページ www.kawai-juku.ac.jp
Kei-Net ホームページ www.keinet.ne.jp

Guideline 4・5

2021
APRIL & MAY



特集 2021年度入試結果速報

変わる高校教育

今問う、学校の意義

～ウィズコロナ・アフターコロナの
高校教育を考える

注目の学部・学科

新型コロナウイルス感染症と学問

大学をみる視点

授業実施方針の読み方

～遠隔授業と対面授業に着目して

探究のポイント

大学入試改革を追う

授業実施方針の 読み方

～遠隔授業と対面授業に
着目して

Contents

- Part.1 各大学の2021年度授業実施方針より p56
- Part.2 大学の取り組み
立教大学 p60
全学共通言語系科目の1年次必修科目と演習・実験・実習科目は対面授業。通学の機会を増やし、人間関係づくりを重視
- 東北工業大学 p62
オンライン授業のメリットを生かしつつ、1・2年生は7割、3・4年生は5割の対面授業の実施をめざす

大学を みる 視点

2020年度は、多くの大学に入構制限がかかり、夏休みまでの授業は遠隔授業中心、または遠隔授業と対面授業の併用となりました。後期には多くの大学が、実験・実習・実技系科目やゼミナール・演習などから対面授業を再開したものの、部活動やサークル活動、図書館や学生食堂などの施設・設備の利用には制限が残りました。オープンキャンパスや学園祭の実施を見送った大学も多く、どのような大学生活を送れるのか、不安を抱える高校生も多いのではないのでしょうか。

そうした不安を解消するため、早い大学では昨年10月頃から、コロナ禍における2021年度の授業実施方針をホームページ等で公表し始めました。大学

選びの参考にした、今春の大学受験生もいたようです。

また、今年3月には文部科学省から「令和3年度の大学等における授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策等に係る留意事項について」が発出され、学生の学修機会の確保と感染対策の徹底を図ること、2021年度の授業実施方針を速やかに決定し、その判断の理由や根拠について、学生一人ひとりに伝わるように周知することが求められています。

そこで今回は、授業実施方針に注目します。各大学がどのように対面授業と遠隔授業を組み合わせさせていくのか、対面授業に不安を感じる学生や、ICT環境等の事情で遠隔授業に課題を抱える学生にはどのように対応するのか等、事例も交えて紹介します。

Part.1 各大学の2021年度授業実施方針より

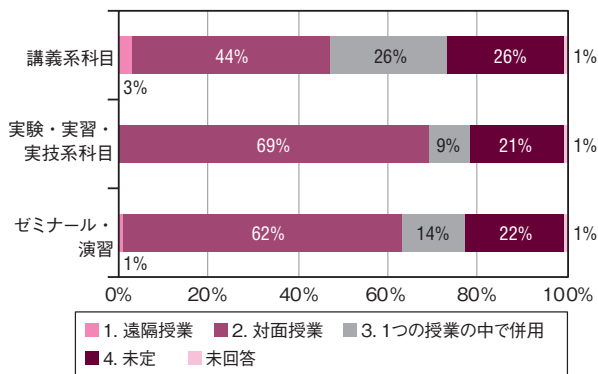
2021年度は実験やゼミなどを中心に
対面授業を実施
1年生の通学を優先させる大学も

2020年9～11月に実施した朝日新聞社×河合塾共同調査「ひらく 日本の大学」^(注1)では、2021年度の授業において中心とする予定の授業方法を、科目の種類別に

聞いた<グラフ1>。回答時点で2割以上の大学が「未定」としたものの、実験・実習・実技系科目については7割、ゼミナール・演習については6割の大学が「対面授業を中心」と回答した。実技を伴ったり、大学の施設を用いたり、他の学生や教員とのインタラクションが重要となる授業についてはできるだけ対面で実施する方向であることがわかる。

(注1) 2020年9～11月に実施。大学院大学・通信制のみの大学を除く767大学を対象に実施し、639大学に協力いただいた。回答率83%。

＜グラフ1＞2021年度に最も中心にしたい授業方法 (n=638)



(朝日新聞社×河合塾「ひらく 日本の大学」2020年度調査より)

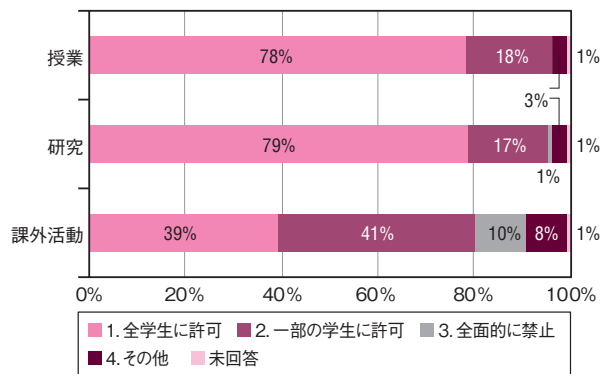
一方、講義系科目については「対面授業を中心」が5割未満となった。講義形式の授業は、知識の伝達を目的とすることが多く、また受講人数も多くなる傾向がある。遠隔授業は対面授業よりも教員の話聞きやすい、教室の広さなどの制約がなく学生が受講できる、特にオンデマンド型の場合は学生が好きな時間に学修できる、繰り返し視聴できるといったメリットもあり、遠隔授業も併用していく方向が見える。

また、昨年10月上旬の段階で、8割の大学が授業や研究を目的とした通学を、全学生に許可していた。一方、課外活動については「全学生に許可」が4割にとどまり、「全面的に禁止」も1割見られた＜グラフ2＞。大学における感染者は、授業そのものよりも、課外活動や、それに関連するいわゆる飲み会、寮生活などで発生したことなどから、課外活動の実施については慎重になっている様子が見える。また、授業は対面を基本としながらも、基礎疾患を有する学生などについては遠隔授業のみでの学修も可能とするなど、各大学が個々の学生の状況に合わせた対応を取っている。

新入生への支援を重視するという回答も目立った。新入生は大学での学修に慣れていない。また、他の学生や教員との人間関係も構築できていなかったり、一人暮らしを始めたりする場合もある。特に2020年度は、前期授業の開講が例年より遅れ、遠隔授業が中心となったことに加え、入学式やフレッシュマンキャンプ(合宿研修)など年度当初に行われる行事が中止となったり、部活動・サークルの活動に制限を設ける大学が多かったり、飲食店を中心にアルバイトが減少したりするなど、孤立感をもつ学生も少なくなかった。そこで、教職員や上級生によるメンタルケアを強化するとともに、対面授業再開後は新入生の通学を優先し、学業不振や大学への不適応を防ごうとする大学も見られた。

海外留学・海外研修については、送り出し・受け入れともに大きな影響が出た。渡航の中止・延期だけでなく、

＜グラフ2＞学生への通学許可 (n=638)



(朝日新聞社×河合塾「ひらく 日本の大学」2020年度調査より)

オンラインで海外の大学の授業を受講したり、海外の学生と交流したりするなど、新たな取り組みを始める大学も見られた。

各大学が対面授業に関する内容を中心に 2021年度の授業の実施方針を公表

こうした状況の中で、学生や受験生が安心して学修、あるいは進学できるよう、大学によっては昨年10月頃から、2021年度の授業や課外活動の実施方針を公表した。各大学の方針を見ると、

- ◆対面授業をどの程度実施するか
- ◆どのような教育活動を優先的に対面で実施するか
- ◆対面授業を実施する際の感染対策(座席の間隔、マスク着用や消毒など)
- ◆遠隔授業を実施する上での支援
- ◆対面授業、通学が難しい学生への配慮
- ◆新入生を対象とした授業や学修支援
- ◆課外活動や施設利用、寮生活に関する規定
- ◆活動制限を変更する場合の判断基準

などが盛り込まれていることが多い。これらの情報から、各大学でどのように学修できるのかイメージでき、大学選びにも活用できるのではないかな。

各大学の方針を具体的に見ていこう。なお、新型コロナウイルス感染症の感染者数があまり多くない地域の大学や、学生数が少ない大学では、2020年度の早期からほぼ全ての授業を対面で実施してきたことなどもあり、上記のような方針を出していない場合もある。そこで、ここでは都市部の大学を中心に、一部抜粋して紹介する。

東京大学は、「学生の皆さんへ 理事・副学長メッセージ～来年度の授業について～」を2020年11月25日に公表した。「学期を通じて自宅でのオンライン授業の受講に終始するような学生が生じることのないよう」、2021年度の授業実施方針を以下のように示している。

- ・オンラインで実施することにより高い教育効果を期待できる授業科目はオンラインで、対面で実施するほうが教育効果の高い授業科目は可能な限り対面により授業を行う。対面授業を実施するにあたっては、十分な感染防止対策を講じた上で実施
- ・例えば、実技を伴ったり、大学にしかない設備を必要とする授業はなるべく対面で行い、多人数の講義形式の授業は原則としてオンラインで行う
- ・人的ネットワークの構築に配慮して、学部1年次、学部後期課程への進学前後の時期等に履修が必要な授業も可能な限り対面で行う
- ・対面かオンラインかに関わらず、インタラクションの機会の設定や反転授業の導入など、能動的学習を増やして教育効果をより高める工夫も検討

新潟大学は、「【学生の皆さんへ】令和3年度第1学期の授業実施について」（2020年12月25日掲載）で、対面型授業を基本とする科目を具体的に示した。

- ・『英語』『初修外国語（ベーシックⅠを除く）』『健康・スポーツ』のうち、「体育実技』『情報リテラシー（受講者が100人以下の科目）』『自然科学（理学）＜実験＞』『大学学習法』
- ・（学部・研究科の授業科目）『初年次教育に関する科目』『実験・実習』『インターンシップ』『ゼミナール』『演習』『卒業（修了）論文』

国際基督教大学は、「2021年度春学期の授業形態の方針」（2021年2月24日）において、授業の受講者数にも言及しながら、以下のように示している。

- ・一部の例外を除いて、予想される受講生数が60名以下の授業は、春学期を通してオンライン式で実施するのか、またはミックス式（オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業）で実施するのか、いずれかを担当教員が決定
- ・大規模授業（予想される受講生が61名以上）は春学期を通してオンライン授業とする
- ・原則として、1つの教室に入ることが許される受講者数は、収容定員の半分とする
- ・対面のみで開講できる授業は、一部の実験授業、フ

ールドワークの授業、実習授業、体育の実技授業、その他対面での開講に適した科目のみ

明治大学は、「2021年度の授業運営方針（学長メッセージ）」（2020年12月17日）において、6段階の活動制限指針レベルを示した上で、2021年度はレベル1【学内における三密を回避するなどの対策により通常の研究活動が可能な状況を想定】に基づいた授業を実施するとした。対面授業が中心になると、通学圏内に住居を移動することが必要になるため、早期に方針を公表することで、住居の確保など学生の生活にも配慮している。

- ・全体の70%程度の授業を対面形式により実施することをめざす
- ・教室における座席等の間隔を広げるなど、密集状態とならないように配慮し、キャンパス内での感染防止に留意
- ・全体の30%程度を目安として、オンラインに適した授業をオンライン形式（オンデマンド配信型を主とする）で実施
- ・通学を前提とした授業運営となるため、通学圏内に住居を移動することを求める
- ・新型コロナウイルスに感染することで重症化しやすい基礎疾患を有するなどやむを得ない理由により通学が困難と認められる学生については、対面授業をオンライン形式で配信する等の配慮をする

遠隔授業の実施にあたっての環境整備について言及している大学も多い。例えば**北海道大学**は、「北海道大学における令和3年度の授業実施方針について」（2021年1月12日）において、

- ・オンライン授業の受講にあたり、自宅等でのインターネット環境を準備すること
- ・対面とオンラインを併用した授業実施に伴い、対面授業の前後の時間に実施するオンライン授業をキャンパス内でも受講できるよう、ノートパソコンを準備すること
- ・ただし経済的理由によりこれらの準備が困難な場合は、自身で準備可能となるまでの間（最大1年間を想定）、ノートパソコンまたはモバイル Wi-Fi ルーターを無償で貸与する

と、パソコンや通信環境を準備することを求めるとともに、必要な学生への支援についても記載している。

留学や寮生活、課外活動に関する 方針を示す大学も

2020年度以降に入学する全ての学部生と大学院生に対して留学を必須とした**千葉大学**は、「令和3年度における授業等の実施方針について（通知）」（2020年12月24日）において、

- ・卒業・修了要件とする「留学」は海外渡航を伴うものとしていましたが、令和2年度入学の学生に対して、本学が認めたオンライン海外留学プログラムの受講により、「留学」とみなす緊急代替措置を実施します

と記載した。

国際教養大学は、2020年度は春学期から全ての授業をオンラインで実施した。1年生の学生寮への入寮を必須とし、共同生活を送ることも教育の特徴の一つだが、2021年1月まで寮・宿舎を閉鎖していた。「2021年度春学期の学部学生の受け入れについて」（2021年1月29日）には、寮に関する記載も見られる。

- ・寮・宿舎は2021年度の新入生、2020年度入学の学生、2019年度秋入学の学生のみを受け入れる
- ・部屋は1人1部屋の使用とし、PCR検査と1週間の経過観察措置、各種感染予防対策を徹底したうえで受け入れる
- ・2021年度の新入生は義務寮となるが、健康上の理由等からキャンパスでの居住に不安を感じる場合は個別相談に応じる

学生の半数を国際学生（留学生）が占める**立命館アジア太平洋大学**は、「2021年度春 semester のキャンパスでの授業実施について」（2021年1月29日更新）において、遠隔授業での時差への配慮についても触れている。

- ・教室で受講できる人数を従来の半分とする
- ・講義系科目の多くをハイブリッド型・スイッチ型

（隔週で対面とZoomでの受講を繰り返す）で実施

- ・1回生の演習科目は毎週対面で実施。ただし事情により対面で受講できない学生が含まれるクラスはハイブリッド型で実施
- ・時差や通信環境の事情でリアルタイムでの受講が難しい場合は、録画での受講も認める

課外活動について触れる大学もある。**立命館大学**は「2021年度 春学期の授業・課外活動について」（2021年3月1日）において、以下のように記載している。

- ・対面での活動が認められている団体については、これまでの通り、感染症対策を徹底することを前提に課外活動の継続を認める
- ・クラブ・サークル等における送別会・謝恩会や歓迎会など、飲食を伴う懇親は引き続き禁止
- ・引き続き、課外自主活動だけでなく日常生活も含めた「3密」回避、マスクの着用、手指の消毒など、感染防止対策を講じること
- ・活動強度の変更、練習試合・合同練習・合宿などの実施、その他相談事項があれば、学生オフィス、スポーツ強化オフィスに問い合わせること

ここまで紹介したように、授業実施方針からは、各大学の遠隔授業・対面授業に対する考え方や、特に対面での活動を重視する教育活動、個々の学生に応じた支援の方向性などが見えてくる。実際には方針通りに授業を実施するとは限らないが、大学が方針を早期に示すことは、学生が見通しを持ち、安心して学修する上で重要である。

また、学生の状況や、所在地域の感染者数、緊急事態宣言の発出などに柔軟に対応し、必要な支援を迅速に行っていくことも大切である。2020年度には、家計が急変した学生や、遠隔授業を受講する環境の整備などのため、支援金の支給、学費納入期限の延長、通信機器等の貸与などを行う大学もあった^{（注2）}。2020年度・21年度の対応を見ていくことで、非常事態の中でどれだけ個々の学生に即した支援ができる大学なのか、参考にすることができるのではないか。

（注2）ただし、大学によっては、学費納入期限の延長や通信機器の貸し出しは2020年度限りの対応で、2021年度以降は実施しないと表明している場合もある。詳細は各大学のホームページ等を確認いただきたい。

東北工業大学

オンライン授業のメリットを生かしつつ 1・2年生は7割、3・4年生は5割の 対面授業の実施をめざす



小林正樹 副学長

東北工業大学は2020年10月末、2021年度の授業実施における基本方針をホームページで公開した。基本方針では、1コマの授業時間、授業回数に加えて、対面授業の実施割合を1・2年生は7割程度（週3～4日）、3・4年生は5割程度（週2～3日）と具体的に示した。こうした方針を早期にかつ具体的に示したのは、学生が入学や進級の準備をスムーズに進められるようにするためだ。2020年度のオンライン授業などの取り組みと2021年度の基本方針について、副学長 小林正樹教授にお話をうかがった。

2020年度の前期は、実験・実習も含めて 全ての授業がオンラインに

2020年度の前期授業は、東北工業大学も全ての授業をオンラインで行わざるを得なかった。それでも方針の決定が早かったため、全教員が授業のコンテンツ作りなどの準備を終え、授業は当初の予定から2週間遅れの4月27日からスタートすることができたという。また、図らずもオンライン授業のための環境も整っていた。「もともとWebClassを導入していたことに加えて、2020年度からMicrosoft Teams（以下、Teams）も導入する予定でしたので、全ての学生と教職員の環境が整っていました」と小林教授は話す。WebClassはLMS（ラーニング・マネジメント・システム）の1つで、教材配布やレポート提出など授業管理ができるシステムだ。また、Teamsはグループチャットやビデオ通話、ファイル共有などができ、クラウド上で大容量のファイル共有もできる。「リアルタイムでオンライン授業を行う場合はTeamsを利用し、オンデマンドの授業は基本的にはWebClassにコンテンツを掲載して学生に提供しました」（小林教授）

オンライン授業の実施にあたり、大学側が最も心配していたのはパソコンやWi-Fiなど学生の受講環境だったが、学生アンケートによって9割の学生は受講環境が整っていることがわかった。さらに、必要な学生には大学

からパソコンやポケットWi-Fiを貸与するなどして迅速に体制を整えた。また、学内で会議を行う度に、教員同士でオンライン授業についての情報交換を行い、優れた取り組みの共有を進めるなど努力を重ねた（注1）。

実験・実習もオンラインで実施 後期授業は3割が対面授業

工学系は実験・実習が必須だが、2020年度の前期はオンラインで実施せざるを得なくなった。実験・実習の授業は当初、感染状況が落ち着いてから、夏休み前に対面授業で集中的に実施する予定だった。しかし、7月に学内関係者から感染者が発生したため、大学の一時的な閉鎖を余儀なくされた。そのため、対面授業で予定していた実験・実習は、夏休み前にオンラインで実施することとなったのだ。「授業はあらかじめ教員が実験している様子を録画し、その中で学生に指示を与えるという形です。実験の手順を説明して、数値の読み取り方やグラフ作成の指示などを行い、学生はそれをレポートとしてまとめて提出をします」と小林教授は説明する。

このように、2020年度の前期はほぼ全ての授業をオンラインで実施したが、後期からは時間割を再編成して、3割の授業で対面授業を開始した。

対面授業の対象としたのは、「演習系の授業や、講義と演習がセットになっているような個別指導が求められる授業を中心に各学科が選定しました。1年生の場合、多い学科では週2回、対面授業を行いました」と小林教授は話す。特定の日に学生が集中しないよう、学科によって対面授業を行う曜日を振り分けるなど、学内で密集が起きないように配慮して時間割を組んだ。また、学生同士が密集しやすい食堂など、教室以外の場所も含めて感染対策を徹底した。

2021年度の対面授業は1・2年生が7割 3・4年生は5割の実施をめざす

2020年10月末には、東北工業大学は2021年度の授業実施における基本方針を公表した＜資料＞。

基本方針の内容は前年度の後期授業と概ね同じだというのが、対面授業の割合が異なる。2021年度は1年生と2年生は対面授業の割合を7割程度に設定し、3年生、4年生は5割程度に設定している。これにより1・2年生は週に3～4日通学することになる。ここには、1年生にはできるだけ多くの通学の機会を与えたいという思いや、2年生は1年次前期が全てオンライン授業だった学年であるという配慮が込められている。これらのことから両学年の対面授業の比率を高めている。

また、3年生後期からは研究室に配属され、卒業研修に勤しむこととなる。実際には毎日のように通学し、教員や他の学生と交流する機会も持つことになるため、3・4年生の授業については対面で行う割合を5割程度に抑えている。なお、研究室での活動は、感染予防を徹底した上ではあるが、少しずつ以前の状況に戻りつつあるようだ。

また、公表時期が2020年10月末と早かったことについて、小林教授は「新入生はもちろんのこと、新年度から一人暮らしなどで転居が必要な学生が困らないよう、できるだけ早く方針を決めて学生に知らせたいという思いからです」と、大学として学生を第一に考えた結果だという。このほか、学生が通学する回数を少なくするため、授業は前年まで15週行っていたところ、2021年度は14週とした。一方、1コマの授業時間を90分から100分に延ばすことで、必要な授業時間を確保しているという。

進むオンライン授業と対面授業のハイブリッド化 新入生向けの特設サイトも

今後について、小林教授は「オンライン授業は、各教員が苦心し、工夫を凝らして作ったコンテンツですので、反転授業の教材としても活用できるでしょう。実際に、教員アンケート^(注1)ではそうした声があがっています」と語り、これからはオンライン授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型の授業が標準となっていく可能性を示した。また、学生からも「いつでも視聴ができて復習にもなる。オンデマンド型^(注2)のコンテンツの場合は聞き逃したところを何度でも聞き直せる」と好評だ。オ

<資料>2021年度の授業実施における基本方針(抜粋)

2021(令和3)年度の授業は、3密を回避し、教室の収容定員を1/2程度以下に設定するなど感染予防に最大限に配慮し、対面授業とオンライン授業を以下の通り併用して実施する。

- ・ 授業時間は1コマ100分とし、14週で行う。
- ・ 1～2年生は7割程度(週3～4日)、3～4年生は5割程度(週2～3日)の対面授業実施を目指す。
- ・ 必要に応じて6限(18:40～20:20)を設ける場合がある。
- ・ オンライン授業においては、曜時にとらわれず開講するオンデマンド型科目を設ける場合がある。

ただし、新型コロナウイルス感染症拡大等の状況によっては、対面授業を中止するなど、授業の実施方法は適宜見直し、柔軟に対応する。

(東北工業大学HPより)

ンライン授業を通じて得られた成果は大きいという。ただし、それと同時に「授業に限らず、学生と教員、あるいは学生同士が対面で語り合うことで生まれてくるものもあります。それを提供する場が大学です。オンラインのメリットを生かしつつ、それでも対面でなければならぬところは当然あります。絶妙なバランスが大切なのです」(小林教授)とオンライン授業の利点を認めつつも、対面授業の必要性を強調する。今後は、各教室に授業を自動録画する仕組みの導入も進め、対面授業でもオンラインコンテンツとして学生に提供できるようにする予定もある。こうしたハイブリッド化の流れはもう後戻りすることはないだろう。ただ、大切なのは小林教授が言うようにバランスなのだ。

ところで、東北工業大学では新入生向けの特設サイト^(注3)を今年から公開している。大学と高校での学び方の違いなどに加えて、全てのクラブ、サークルを紹介する学生たち自作の動画も見ることができる。入学準備やオリエンテーションもハイブリッド化しつつある。授業のみならず、東北工業大学の変化には今後も目が離せない。

(注1)「コロナ禍における本学の授業等の取り組み」HP 2020年度のオンライン授業に関する動画やオンライン授業総括アンケートの結果などが掲載されている。

<https://www.tohtech.ac.jp/important/supportsystem/index.html>

(注2) オンデマンド型…事前に授業を収録して配信し、学生が視聴したい時間に受講できる方式。

(注3) 新入生向け特設サイトHP <https://www.tohtech.ac.jp/freshers/>